

北朝鮮の国土を見ました

修学旅行気分の5日間

ソウルは高層ビルが立ち並び、都心の交通渋滞などは東京と変わらない。ただ、南大門や東大門の市場規模はアメ横や新大久保の比ではない。3〜4車線の広々とした高速道路や整備された地下鉄網にも驚いた。

宿泊したのは都心から少し離れた新開発地域の小さなホテル。ベッド3台が部屋いっぱいには並べられ、バスタブもなく、トイレもシャワーも一緒だ。誰かが修学旅行のようだと言って笑った。

▼格安航空

利用した航空会社は韓国の格安航空会社（LCC）「イースター航空」。両側3列のボーイングの新鋭機を使用し、折り返しの成田駐機時間は1時間。定員を増やすため座席幅が狭いと聞いていたが、思ったより気にならない。コーヒーなど飲食物はすべて有料で、オギカンさんが頼んだ缶ビールはおつまみ付きで500円。

4泊して旅行代金が4万2千円だったが、このうち航空運賃はいくらになるのか。ホテル代を引くと、成田―仁川間往復で燃油サ―

チャージ代を含めても、せいぜい2万円にもならないか。韓流ブームでLCC利用のリピーターが一段と急増していると聞いて納得した。

▼地下鉄網

整備された地下鉄網には目を見張った。車両の幅が広いし、きれいだ。路線ごとに色分けされているので、観光客にも分かりやすい。ただ、どうしてこんなに歩かされるのかと思うくらい乗換駅での連絡網が悪い。エスカレーターが少ないことにも困惑した。理由は分からないが、高齢者にとっては厳しい。

反対に感心したのはトイレの標識。地上でもそうだが、地下鉄の駅構内でもトイレの案内が至る所に表示されている。

▼統一展望台

国鉄ソウル駅から電車とタクシーを乗り継いで1時間半、烏頭山統一展望台を目指す。度肝を抜かれたのが最寄り駅「金村」から乗ったタクシー。高速道でもないのに100キロ超のスピードですつ飛ばした。「怖いね」とささやく間もなく到着。



赤茶けた北朝鮮の田園風景

展望台は漢江と臨津江（イムジン河）の合流する高台にあった。有料の望遠鏡でのぞくと、約3キロ先の対岸に白い集合住宅と北朝鮮の山並みが見えた。森林を伐採したのか、それとも干ばつで樹木が枯れたのか、山の中腹まで延々と赤茶けた国土が広がっている。河岸沿いに緑の田畑らしい農地が眺望できたが、人影はない。

▼辛み料理

予想はしていたが、韓国料理はどれも結構辛い。どの店に入っても必ずキムチなどが付いてくる。辛党の食通にはたまらないだろうが、非辛党系の者にはちよつと苦手だ。キムチなど



南大門市場に行く老男若女のご一行

は食べなければいけないのだが、汁の中に入ってくる辛みはどうしようもない。ただ、仁寺洞通りの韓国料理店の料理は抜群だった。一見さんでは見つけられない分かりにくい店だが、コンダクターが苦心して探してきた。さすがに4日間、家庭料理や焼肉、海鮮料理を食べ歩いたが、夕食後に喫茶店でばか話をしながらのアイスクリームは味が格別だった。

（富田 信吉）

めんどくせー

「変集長」から「往かざるの記」を書けとの仰せ。死に損なつたということ

か。あいにくまだまだしばらく生きています。なぜ一緒に韓国旅行に行かなかったのかと詰問されたが、特に大仰な理由はない。無理に理由付けすれば「めんどくさい」ということか。

まず、バスポートは20年前に失効している。成田までは電車を乗り継いで2時間半以上。旅行グッズの取り揃え、5種類の薬を日に3回服用、トイレも近いし；等々を考えると「めんどくせー」ということになる。でもこれは無理やり考えた理屈だ。新しいことをすることにのっくうになるのは老化現象の最たるもの。相当老化が進んでいるという証拠ですね。（原 征）

統一展望台から見た北朝鮮

